

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番 12	福山市立 培遠中 学校
最終更新日	2019年(平成31年)2月4日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・引き続き小中9年間で子どもたちを育てる取組を継続して欲しい。 ・今後も地域と協力し、地域の行事等に積極的に参加していただきたい。地域とかかわりをさらに深め、地域交流会等の取組を継続して実施してください。	児童生徒の現状 ・基礎基本的学力については、ほぼ定着しつつあるが、思考力・表現力、学習習慣の定着に課題がある。 ・奉仕的活動への参加意欲は高まっているが、自己効力感が低い。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	課題発見・解決力、論理的思考力、コミュニケーション力、実践力(高い奉仕の精神) ・自ら進んで学習する子ども ・社会のルールやマナーを守って行動できる子ども ・社会の一員として、進んで奉仕できる子ども ・授業規律の徹底 ・ICT機器を有効に活用した授業づくり ・あいさつ運動の実施 ・地域貢献活動の実施
--	--	---	---

III 自校

ミッション 知・徳・体の調和がとれ、自らの学校に誇りを持てる生徒を育てるとともに、地域・保護者との繋がりを深め、地域に愛され、信頼される学校教育の創造を目指す。	学校教育目標 夢を志にチャレンジ ～たくましく生きる力を身に付け、自らの進路をきり拓き、地域に貢献できる生徒を育てる～	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像	○課題発見・解決力 ○論理的思考力 ○コミュニケーション力 ○実践力(高い奉仕の精神) ○培遠精神&たんぼぼ魂【課題発見・解決力、論理的思考力】 ・夢を持ち、自ら課題を見付け、その解決に向けて自ら考え、何事にも挑戦しようとするたくましい生徒 ○生活五訓(挨拶・時間・美化・服装・姿勢)【実践力】 ・当たり前をひたむきに取組む生徒 ○地域貢献【課題発見・解決力、実践力(高い奉仕の精神)】 ・地域を愛し、感謝の気持ちを忘れず、ボランティア活動や地域行事に積極的に参加する生徒 ○和衷協同【コミュニケーション力】 ・仲間を大切に、協働し共に伸びようとする生徒
現状 <児童生徒> ・学力調査等において、県平均を上回るなどの成果は見られるが、通過率30%未満の生徒の割合が高い。 ・あいさつに対する意識は高まっている。 ・小中連携や地域ボランティアへの参加によって地域からの評価が高まるとともに地域が好きと答える生徒が増加傾向にある。 <授業> ・毎授業、「めあて」とそれに対応した「まとめ」「振り返り」など、授業スタイルが定着してきた。 ・基礎学力を定着させていくために、全教科で「かく」活動を取り入れた授業に取り組んでいる。 ・主体的で対話的な学習を進めるために、ICT機器の活用やグループ学習を授業に位置づけ、学習意欲や思考力・表現力の向上に努めている。	教科等 総合的な学習の時間	研究 主題・内容等 小中9年間を見通した主体的・対話的で深い学びを目指した授業の創造 ～学習規律の徹底とICTの有効活用を通して～	めざす授業の姿 ○「自ら考え学ぶ」授業 ・単元のゴールを明確にした授業づくりを通して、関心意欲を引き出す[めあて]、分りやすくて確かな「まとめ」、自分の言葉で書く「振り返り」を行う。 ・課題発見・解決型授業を通して、生徒が主体的・対話的に活動し、グループ学習等の集団思考によって、基礎学力の定着と「深い学び」を目指した面白い授業を行う。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力での達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力での達成評価	総合評価	改善方策		
2	全国学力学習状況調査等の調査問題において、通過率を全ての教科で国、県平均以上にする。	★	継続	授業の内容が分かると回答する生徒の割合を80%以上にする。	▽現実性のある「めあて」(課題)を設定する。 ▽単元の目標に迫るためのパフォーマンス課題を設定する ▽予習・復習に取組ませる。	△単元において、生徒が「なぜだろう」と思うような課題を設定(発問)し、自分の考えを「書かせる」授業を行っている <sup>考えを</sup> と回答する割合を80%以上にする。 △復習等家庭学習を1時間以上している生徒の割合を80%以上にする。	□生徒が「なぜだろう」と思うような課題を設定し、自分の考えを「書かせる」授業を行っている <sup>考えを</sup> と回答する割合 92% □家庭学習を1時間以上している生徒の割合 74.1% □授業が楽しく分かりやすいと答える生徒の割合 87.5% □「全国学力」において、国語A,B、数学A、理科で県平均以上であった。	4	4	○子どもの問いを中心にした課題発見・解決の場や、ICTの活用場面をつくり、学習意欲を高めた面白い授業づくりを進める。 ○日本語検定の全員実施などを通し、学校全体で学びに向かう集団づくりを進める。 ○カリキュラム・マップをもとに、つきたい力を意識した教科横断的な学習計画を立てる。	□単元計画をもとに、「かく活動」の時間を設けていると回答する割合 94% □「主体的な学び」を進めるために、生徒が興味を持つ教材・題材、導入(パフォーマンス課題の設定等)などの工夫をしていると回答する割合 88% □家庭学習を1時間以上している生徒の割合 74.1% □授業が楽しく分かりやすいと答える生徒の割合82.9% □1,2年の86%が日本語検定5級を取得。	4	4	4	○子ども主体の学びをめざし、全職員が授業づくりに挑戦し、個々の実践について交流を図りながら授業改善を進める。(校内での授業公開、授業参観を活性化させる) ○日本語検定を1年、文章検定を2年 <sup>を</sup> ははじめ、各種検定試験の校内実施ができる環境を整える。 ○カリキュラム・マップをもとに、総合的な学習の時間を軸に、つきたい力を意識した教科横断的な学習計画を立てる。
1	長期欠席生徒率を全国平均以下にする。		新規	新たな不登校生徒・30日以上欠席生徒を前年度より50%以上減少させる。	▽生徒会主催のあいさつ運動や地域の方と合同のあいさつ運動を実施する。 ▽班長会等を活用したリーダー育成と学級集団作りに努める。 ▽生徒会主催のボランティア活動を月1回実施する。	△生徒アンケートで「自分には良いところがある」と答える生徒の割合を70%以上にする。 △生徒アンケートで「本音で相談できる人がいる」と答える生徒の割合を85%以上にする。 △学校が楽しいと回答する生徒を90%以上にする	□「自分には良いところがある」と答える生徒の割合 71.9% □「本音で相談できる友達がいる」と答える生徒の割合 82.8% □学校が楽しいと回答する生徒の割合 81.2% □9月末現在、30日以上欠席生徒19人で、いずれも今年度からの生徒は0人である。	4	3	○あいさつや掃除、ボランティア活動等、あたりまえが出来ている生徒をほめ、表彰する場を積極的に設ける。 ○アンケートをもとに、学期に1回はカウンセリング週間の実施をする。 ○引き続き、毎週カウンセラー、学校相談員などを交えた担当者会を行い、早期発見、早期対応を図る。 ○「10分の電話より5分 <sup>の</sup> 家庭訪問」を実践する。	□「自分には良いところがある」と答える生徒の割合 71.6% □「本音で相談できる友達がいる」と答える生徒の割合 83.3% □学校が楽しいと回答する生徒の割合 86% □1月末現在、30日以上欠席生徒29人で、今年度からの生徒は6人である。(昨年度の新たな欠席生徒は9人であったので、新規の生徒については3人の減少)	4	3	3	○i-Checkなどの生徒アンケートをもとに、集団の状態を分析しながら、学級経営・学年経営を進める。 ○学期に1回はアンケートを元にしたカウンセリング週間の実施をする。 ○毎週カウンセラー、学校相談員などを交えた担当者会を行い、早期発見、早期対応を図る。 ○生徒主体での生徒指導規定の見直しなど、生徒にとって通いやすい、学びやすい学校づくりを進めていく。

2	新体カテストで県平均を上回る項目数を50以上とする。	継続	△新体カテストの県平均を上回る項目を40%以上にする。	<p>▽体育の授業の補強運動で、計画的に弱点補強を徹底する。</p> <p>▽部長会による部活動参加の呼びかけを行う。</p> <p>▽保体委員会による生活リズムチェックを定期的に行う。</p>	<p>△全学年、50m走、シャトルラン、ハンドボール投げを県平均以上にする。</p> <p>△部活動参加率を80%以上にする。</p> <p>△朝食を食べてくる生徒を90%以上にする。</p>	<p>□体カテスト全体において昨年度の県平均を上回る項目は61%であった。また、シャトルランは1年女子を除き昨年度県平均以上であったが50m走、ハンドボール投げは達成率が3/12である。</p> <p>□部活の参加における肯定値の割合71%</p> <p>□朝食を食べてくる生徒89.0%</p>	4	3	<p>○体育の授業や、一斉ランニングの実施などを通し、継続して持久力の向上を図る。</p> <p>○一斉部活動日を設定したり、部長会を定期的に関わりたりして、部活動参加を呼びかける。</p> <p>○委員会を中心とした生活リズムチェックや朝食づくりなどの食育を進める。</p>	4	3	4	<p>○重点項目を設定し、縦割りでの体づくりを行うなど、学校全体で記録の向上を図る。</p> <p>○業務改善を行い、平日に教師が部活動の指導ができるようにする。</p> <p>○部長会を中心に生徒が主体的に部活動の運営ができるようにする。</p> <p>○年間を通して、委員会を中心とした健康啓発の活動を計画する。</p>
4	地域・保護者の学校教育に対する満足度を90%以上にする。	継続	学校関係者評価会議での評価項目についてすべて◎評価にする。	<p>▽培通通信を月1回以上発信する。</p> <p>▽HPの定期的な更新を図る。</p> <p>▽地域の行事やボランティアへ参加させる。</p>	<p>△「子どもは学校生活に満足している」と回答する保護者の割合を90%以上にする。</p> <p>△地域行事やボランティアに参加していると回答する生徒の割合を75%以上にする。</p>	<p>□「子どもは学校生活に満足している」と回答する保護者の割合82.4%</p> <p>□地域行事やボランティアに参加していると回答する生徒の割合76.8%</p>	4	3	<p>○学校だより、ホームページを中心に、地域へ学校の様子を発信していく。</p> <p>○生徒会、ソーラン隊、ボランティアを中心として、地域行事への参加を推進する。</p> <p>○大学とも連携し、SDGsの視点で地域の課題を見つめ、ユネスコスクールへの登録を目指す。</p>	4	4	4	<p>○学校だより、ホームページを活用し、地域へ学校の様子を発信していく。</p> <p>○地域行事の年間予定を作成し、生徒会、ソーラン隊を中心に、生徒へのボランティア参加を推進する。</p> <p>○ユネスコスクール登録を目指し、多方面と連携してSDGsの視点で学習を計画する。</p>